

自己点検・自己評価

2023年4月17日

A:達成している B:ほぼ達成している C:取り組みを検討中 D:改善が必要

和陽日本語学院

代表取締役社長 左右真哉

1.教育理念・目的等

1-1 理念・目的・育成人材像が定められている	B
1-2 学校の特色を教職員及び学生に周知している	A
1-3 学校の将来構想を抱いている	B
1-4 理念、教育目標が社会の要請に合致していることを確認している。	A

具体的な改善方策：

ホームページの分かりやすいところに、目的、人材育成像を掲載する。
中長期経営計画を作成し、将来構想を书面化していく。

2.学校運営

2-1 日本語教育機関の告示基準に適合している	A
2-2 学校の理念・目的の達成に沿って運営方針が定められている	A
2-3 学校の理念・目的の達成に沿って事業計画が定められている	A
2-4 運営組織や意思決定機能は確立され、効率的なものになっている	B
2-5 人事や賃金での処遇・職場環境の改善に関する制度は整備されている	A
2-6 情報システム化等による業務の効率化が図られている	B
2-7 予算編成が適切に行われ、執行ルールが明確である。	A

具体的な改善方策：

出席管理等に関してITシステムを導入していくことでより効率化を図っていく。

3.教育活動の計画

3-1 学校の理念・教育目標に合致したコース設定をしている。	A
3-2 カリキュラムは教育目標達成に向けて体系的に編成されている	A
3-3 授業評価の実施・評価体制がある	B
3-4 目標に向け授業を行うことができる要件・資質を備えた教員を確保し、適切な配置をしている	A
3-5 外部の各種日本語試験の認定率や得点向上のための指導体制は整っている	B
3-6 教育目標に合致した教材を選定している	B
3-7 著作権法に留意して教材を使用している	B
3-8 教育内容及び教育方法について教員間で共通理解が得られている	B
3-9 国内、又は国際的に認知されている熟達度の枠組みを参考にしてレベル設定をしている。	A

具体的な改善方策：

授業を定性面、定量面から評価をしていく。

4.教育活動の実施

4-1 授業開始までに学生の日本語能力を試験等により判定し、適切なクラス編成を行っている。	A
4-2 教員に対して、担当するクラスの学生の学習目的、試験の結果、学習歴その他指導に必要な情報を伝達	B
4-3 開示されたシラバスによって授業を行っている。	B
4-4 授業記録簿及び出席簿を備え、正確かつ詳細に記録している。	A
4-5 理解度・到達度の確認を実施期間中に適切に行っている。	A
4-6 学生の長期・短期目標を把握している。	B
4-7 個別学習指導等の学習支援担当者が特定され、適切な指導・支援を行っている。	A
4-8 特定の支援を必要とする学習者に対して、その分野の専門家の助言を受けている。	B

具体的な改善方策：

定期的に講師会議を実施し、学習目的、試験の結果等必要な情報を伝達する場を設ける。
個別面談やアンケート等で、学生の長期、短期目標を把握することに努める。

5.成績評価と授業評価

5-1 成績評価基準及び評価方法が明確に定められている。また評価基準と方法を開示している。	B
5-2 成績評価結果を的確に学生に伝えている。	B
5-3 評価基準及び評価方法の妥当性を定期的に検証している。	A
5-4 授業評価を定期的実施している。	B
5-5 評価体制、評価方法及び評価基準が適切である。	B
5-6 学生による授業評価を定期的実施している。	A
5-7 授業評価の結果が教育内容や方法の改善、教員の教育能力向上等の取組に反映されている。	B

具体的な改善方策：

成績の評価基準、評価方法は明確に定められているが、学生への開示はまだ徹底していない。今後は学生にも基準を開示し、テストへの意識を高めてもらう必要がある。

6.教職員

6-1 校長、主任教員、専任教員及び非常勤教員の職務内容及び責任と権限を明確に定めている。	A
6-2 教育目標達成に必要な教員の知識、能力及び資質を明示している	A
6-3 教員及び職員の採用方法及び雇用条件を明文化している	A
6-4 教員及び職員の研修等により教育の質及び支援力強化のための取り組みをしている	A
6-5 教員及び職員の評価を適切に行っている。	B

具体的な改善方策：

定性評価、定量評価に教員及び職員の評価を実施する。

7.教育成果

7-1 入学から修了・卒業までの学習成績を記録、保管し、適切に管理している	A
7-2 修了・卒業の判定を適切に行っている	A
7-3 外部の各種日本語試験の結果を把握している	A
7-4 卒業または修了後の進路を把握している	A
7-5 卒業生及び修了生の状況を把握するための取組を行い進学先等での状況や社会的評価を把握している。	B

具体的な改善方策：

卒業生と現役生の交流の場を設けるなど、卒業生と定期的に連絡を取れる環境整備をしていく。

8.学生支援

8-1 学生支援に関する体制は整備され、有効に機能している	A
8-2 学生の心身の健康管理・事故・怪我サポートを担う体制があり、有効に機能している	A
8-3 住居等、学生の生活環境への支援は行われている	A
8-4 日本社会を理解するための支援が適切に行われている	A
8-5 留学生活に関するオリエンテーションを実施している。	A
8-6 アルバイトに関する指導及び支援を行っている。	A
8-7 対象となる学生全員が国民健康保険に加入している。	A
8-8 危機管理体制を整備し、教職員および学生に周知している。	B

具体的な改善方策：

緊急時の対応について、掲示板に貼り出すなど周知徹底する。

9.進路指導

9-1 進学指導に関する体制は整備されている	B
9-2 学生の希望する進路を把握している。	A
9-3 進学に関する最新の資料が備えられ、学生が閲覧できる状態にある。	B
9-4 入学時からの一貫した進路指導を行っている。	A

具体的な改善方策：

1人の教員が担当する学生が多いのが、課題である。人員の増員や進学指導が可能な人材の育成に努める。

10.在留管理

10-1 入国・在留関係の管理・指導と支援が適切に行われている	A
10-2 地方出入国在留管理局により認められた申請等取次者を配置している。	A
10-3 学生に我が国の法令を遵守させる指導を行っている	A
10-4 在留に関する最新の学生情報を常に把握している	A
10-5 在留上、問題のある学生への個別指導を行っている。	A

具体的な改善方策：

法令遵守の徹底に関する指導、問題学生に対する個別指導を引き続き徹底してやっていく。

11.学生の募集と受け入れ

11-1 学生の受入方針は定められている	A
11-2 学生募集活動は、適正に行われている	A
11-3 学生募集活動において、教育内容、教育成果正確を含む学校情報、求める学生像、及び応募資格と条	A
11-4 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われている	A
11-5 適正な定員設定及び在籍者数になっている	A

具体的な改善方策：

入国目的や経費支弁能力の確認を重視して、受け入れを行っていく。

12.教育環境

12-1 教室内は、十分な照度があり、換気がなされているとともに、語学教育を行うのに必要な遮音性が確	A
12-2 授業時間外に自習できる部屋を確保している。	B
12-3 教育内容及び学生数に応じた図書やメディアが整備され、常時利用可能である。	B
12-4 視聴覚教材や IT を利用した授業が可能な設備や教育用機器を整備している。	A
12-5 教員及び職員の執務に必要なスペースを確保している。	A
12-6 同時に授業を受ける学生数に応じた数のトイレを設置している。	A
12-7 法令上必要な設備等を備えている。	A
12-8 廊下、階段等は、緊急時に危険のない形状である。	A

具体的な改善方策：

より大きなディスプレイを導入するなど、ITを利用した授業の設備充実に努める。

13.財務

13-1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえる	A
13-2 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっている	A
13-3 財務について会計監査が適正に行われている	A
13-4 財務情報公開の体制整備はできている	A

具体的な改善方策：

思わぬ危機に対応できるよう財務基盤の安定に努める。

14法令等の遵守

14-1 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされている	A
14-2 個人情報に関し、その保護のための対策がとられている	B
14-3 関係省庁への定期報告を遅延なく実施している	B

具体的な改善方策：

個人情報の保護に関しては、ホームページにプライバシーポリシーを掲載するなど、周知徹底に努める。

15 地域貢献、社会貢献

15-1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っている

B

15-2 学生、教職員のボランティア活動を奨励・支援している

A

具体的な改善方策：

世田谷区のボランティア活動を職員に周知するなど、地域貢献、社会貢献を図っていく。